



記念式典
12/14
10:00

王子小 HP→



150anniversary

かがやけ！王子っ子

㊦んがえる子 ㊦んばる子 ㊦さしい子 ㊦んこうな子

東京都北区立王子小学校

校長 原田 英孝

令和6年6月28日

「ふれあい月間を、ふれあい年間へ」

副校長

「いじめ、カッコ悪い」

私が今よりも若かった頃に、こんなフレーズをよく耳にしました。元サッカー日本代表の前園選手のポスターに使われていた言葉です。現在も「いじめ」による悲しい出来事はなくなりますが、当時も同様でした。

「いじめ」はどこでも起きる可能性があります。大人の世界でも実際にありますし、どの学年・学級であっても起きないとは断言できません。十数年前のことです。私が担任したクラスで「いじめ」が起きました。きっかけは些細なことでした。給食当番だったある男の子が手洗いを忘れたのです。それを見ていたある子が、「手を洗っていないあの子から給食を受け取りたくない」と言い出し、次第に周囲が真似を始めました。

給食だけでなく、普段の生活でもその子を避けるようなことが続きました。6年生なので、大人の前では上手に隠していました。恥ずかしい話ですが、私が気が付いたのは、「先生、息子が帰ってきてから、何十回も何時間も手洗いをしています。」という保護者の電話を受けてからでした。

「いじめ」を受け続けたその子の心はどれだけ苦しただろうか。何よりも大切な我が子がそんな目に遭っていると知った家族の胸の内は、どれほど張り裂けそうな気持ちだったことか。どうしてもっと早く気が付くことができなかつたのか。悲しみ・後悔・申し訳なさが入り交じり、涙が止まりませんでした。

クラス全員で何度も話して解決には至りましたが、だからといって起きたことは一生消えません。「いじめ」の傷跡は未来に残るものなのです。子供たちに、二度とそんな気持ちを味わわせたくありません。

先月はふれあい月間ということで、王子小では自他を大切にする指導やいじめ防止の取り組みを行いました。この月間のときだけ気を付けるのではなく、いつもアンテナを高くして、小さな芽のうちに摘み取ることこそが、「いじめ」を予防するための確かな1歩です。王子小の子供たちが安心して登校できるよう、引き続き、子供たち同士の間、そして子供と職員の間「心のふれあい」が溢れる学校にしていきたいと思います。

5年生

5月30日(木)から3日間、岩井自然体験教室に行きました。

体験教室に行く1ヶ月前。学年皆が「主役」であることから岩井プロジェクトを立ち上げ、行程や宿舎での約束などを考えました。次第に、普段の学校生活から約束を守ろうと、互いに言葉を掛け合うようになりました。

体験教室では、学年の仲間や指導員さん、保護者の方など、たくさんの方に支えられていることに気づき、感謝の気持ちを言葉で伝えたり、態度で示したりすることができました。

一方で、学年の課題に向き合い、改善・解決に結び付けようと努力した3日間でもありました。今後のさらなる成長を楽しみにしています。

王子学級

令和2年度に、王子小学校に王子学級(自閉症・情緒障害特別支援学級)が開設されました。

今年度は、14名の児童が在籍しています。学習面では大きな課題はありませんが、コミュニケーションや心理的安定に関すること、人間関係の形成に関することについて、自立活動という特別な領域の学習を設定し、社会性を育てています。

また、児童の実態に応じて、それぞれの学年の交流学級の授業に『交流及び共同学習』として参加することもあります。学校は社会の縮図とも言われています。王子小学校が『インクルーシブ教育』のモデルとなり、共生社会の実現に向けて全校児童が共に育ち合っていけるよう、学校全体で取り組んでいます。

